

# 協調性や体力。ピッチで伸ばせ

## 特別支援学校生フットサル大会

道内の特別支援学校の生徒を対象にした初めてのフットサル大会が28日、札幌市内で開かれる。知的障害などがある生徒に、体力や協調性を身に付ける機会にしてもらう狙いで、大会後は、フットサルの元プロ選手を学校に派遣し、技術指導する事業も計画されている。

大会は、道内で知的障害者施設を運営する社会福祉法人明日佳(札幌市)や、フットサルFリーグ「エスポラーダ北海道」

### 28日 札幌で初開催

の運営団体に理事長を務める小野寺真悟さん(71)が発案した。

大会を開くための一般財団法人を昨夏に設立し、希望する学校にフットサル用のボールやゴールを贈り、競技に親しんでもらう取り組みを続けてきた。今後はエスポラーダ北海道のOB選手らを学校に派遣することも予定している。

フットサルはルールが覚えやすく、少人数で比較的狭い場所でもプレーできる。障害があつ

ても手軽に取り組めるのが利点という。生徒たちの体力づくりに加え、意思疎通が苦手な生徒にチームプレーや協調性を学んでもらい、卒業後の自立に役立てることが期待されている。

南区の北海道青少年会館コンパスで開かれる初の大会には、これまでに、札幌市や十勝管内中札内村などの知的障害のある生徒らが通う17校がエントリー。小野寺さんは「特別支援学校を卒業した後に働いて自立するため、体力も精神力も強くすることが大切。長く続ける大会にしたい」と話している。